

# 横田英史の 書籍紹介コーナー



## ぼくらがAIBOをつくった ～ソニー・ロボティクスの挑戦～

黒川文雄

ラトルズ 2,640円(税込)

ソニーが1999年に発売した家庭向けロボット(犬型ペットロボット)「AIBO」の開発物語。開発プロセスや設計思想、AI的仕組みなど、知られざる内容が多い。主要メンバーへの取材をもとに構成する。ヒューマノイドロボットやフィジカルAIなど、現在に通じる話が詰まっております。

AIBOには、標準インタフェースやアーキテクチャ、フレームワークといった設計思想が反映されている。ハードウェアはモジュール化され、各部位は標準インタフェース(USBだと思われる)でデータをやり取りする。

帯に「ロボットに『心』を与えようとした人々の奮闘と革新」とあるが、AIBOの『心』の仕組みは知らなかった。オーナーとの関係性で成長の仕方が異なり行動パターンが変わる。行動パターンが異なるので、オーナーはAIBOに飽きない。AIBOが心を持つように感じ愛着につながるという。

## 半導体覇権

### ～国家に翻弄される巨大企業～

日本経済新聞社

日経BP日本経済新聞出版 2,200円(税込)

世界の半導体トップ企業の動向と各国・地域の政策を、日経新聞の支局員が紹介した書。よくまとまっており、頭の整理に役立つ。取り上げるのは日本、米国、韓

国、台湾、中国、インド、東南アジア諸国、欧州。企業としては、インテル、エヌビディア、TSMC、サムスン、AMD、ブロードコム、ラピダスなどが登場する。

現在の世界半導体産業がおかれた状況を、TSMCの創業者モリス・チャンは「グローバル化はほぼ死んだ」と表現する。半導体産業はこれまで国際分業で成長を果たした。これが米中対立をキッカケに、国家の介入が強まり分断の時代に突入した。生産拠点は拡散し、半導体産業は過剰供給リスクを抱え込むことになった。このままでは、半導体ビジネスは多くの企業が儲かれない「官製不況」に陥る可能性があるというのが本書の見立てである。

## サム・アルトマン

### ～「生成AI」で世界を手にした起業家の野望～

キーチ・ヘイギー、櫻井祐子・訳

NewsPicksパブリッシング

2,530円(税込)

ChatGPTを開発した米オープンAIの最高経営責任者(CEO)サム・アルトマンの評伝。アルトマンの人格的な欠点や家族の問題などを遠慮なく、ときに辛辣に紹介する。例えば、自分の思っていることを人にやらせるために「でまかせを言う」、それがうまく行かなかった時は「相手を貶めたり」「信頼性を傷つけたりする」、誰にでも嫌われないように立ち回る、といった具合だ。

オープンAI社のアルトマンCEO解任騒動についても詳述する。社内やステークホルダー間のゴタゴタの背景や人間模

様などについて、多角的に追跡しており読み応えがある。

アルトマンは、スティーブ・ジョブズばりの「現実歪曲空間」を生む力を備えるとともに、決断力と楽観性に富む人物だといふ。自分についてこれない人間は相手にせず、一人で突っ走るタイプだといふのもジョブズばりである。

## チームワークを科学する

### ～イノベーションを導くチームの作り方～

堀井秀之・編

東京大学出版会 2,970円(税込)

チームワークとは何か、パフォーマンスの高いチームワークとはどういったものか、イノベーションを生み出すチームワークの在り方などについて、データに基づく研究成果を集めた書。企業戦略を生み出すチームワーク、信頼を醸成するチームワーク、知識創造活動を生み出すチームワークなどを取り上げる。「へ～」と驚くような指摘の数々が本書の価値だろう。

例えば、心理的安全性がチームワークに与える「正」の影響が、変革型リーダーシップによって弱められる可能性を示唆する。変革型リーダーは、ビジョンの提示や個々のメンバーへのサポートを通して高いモチベーションを引き出す。しかし、リーダーシップが強すぎて個々のメンバーの自主的な創造を阻害してしまう。

今後は、生成AIがチームの一員として機能するだけでなく、隠れたリーダーの役割を果たすと予測する。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。

川崎重工工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、

同副編集長、BizIT(現日経クロステック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。

2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、

2016年日経BPソリューションズ代表取締役役に就任。2018年3月退任。

2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、

2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DXパートナーズ アドバイザリーパートナー、2024年3月(株)観瀨舎を設立 代表取締役社長、

現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

\*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

